

# 鳥上地区、阿井地区の幼稚園 長い歴史に終止符 そして 四月から新たに幼稚園が開園

三月二十一日に鳥上幼稚園の開園式が行われました。鳥上幼稚園は昭和三十六年に開園し、五十二年間で八百四十九人の児童を送り出しました。閉園にあたり井上町長が「これまで人とのつながりを大事にする教育を貫き、児童たちに暖かく接してくれた多くの地域や教職員の方々に感謝します」とお礼の言葉を述べ、松下誠園長は「感謝の気持ちを忘れず、これからもがんばって欲しい」と子どもたちにエールを送りました。

四月二日、幼稚園舎が鳥上幼稚園に生まれ変わり、開園式が行われました。地区の子どもたち十人が入園し、児童全員と関係者でくす玉を割って開園を祝いました。社会福祉法人仁多福祉会の運営による鳥上地区の新たな幼児教育の歴史が、この日スタートしました。



▲鳥上幼稚園として生まれかわった園舎



▲くす玉を割って開園をお祝い



▲長い歴史に幕をおろした阿井幼稚園



▲賑やかに開園をお祝い

三月二十二日、阿井幼稚園の開園式がありました。阿井幼稚園は平成元年に開園し、二十四年間で三百九人の児童を送り出しました。福田幸子園長は「心の中の思い出や、幼稚園で学んだことを大事にしてこれからもがんばってほしい」と三人の子どもたちに伝え、子どもたちも「幼稚園のことを忘れずにこれからもがんばります」と応えて、幼稚園の歴史に幕を降ろしました。四月三日、阿井保育所が阿井幼稚園として生まれ変わり、開園式が阿井小学校体育館で行われました。入園した児童六十六人をはじめ、保護者、地域の関係者が数多く集まる賑やかな船出となりました。

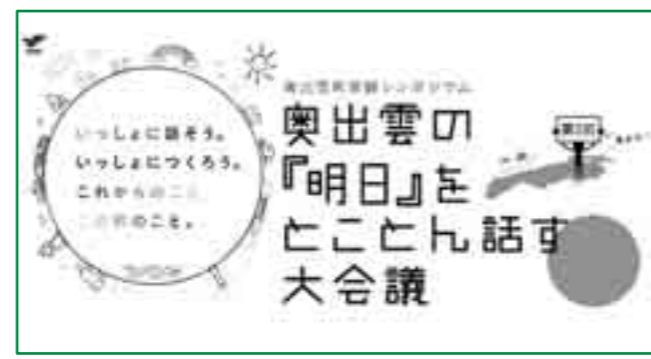


三月十四日、横田高校体育館で「キミチャレ」と題した進路ガイダンスが行われました。これは地元で働く「若者」十五人を講師として迎え、高校生たちが先輩たちの話を聞くことでこの先の進路に役立ててもらおうと企画されたものです。生徒たち自身が話を聞きたい講師をその場で選んで集まりました。

講師たちは集まった生徒たちにスケッチブックや画用紙で作った資料を駆使して自分の経歴や今の仕事について話し、生徒たちはメモを取りながら一生懸命に聞き入っていました。講師の一人、森田醬油店で働く赤名卓大さんは「夢を持っていろんなことをやってみて下さい。人生に無駄になる経験は一つもありません」と熱く語りました。



▶講師の赤名さん(右)



より良い町づくり・人づくり・景観づくりのために一人一人何が出来たのかを話し合う奥出雲町景観シンポジウム「奥出雲の明日をここへん話す大会議」が三月二十日、町民体育館にて行われました。会議は島根デザイン専門学校の青木和幸校長による「心が変える!奥出雲」をテーマとした講演からスタートし、「米一グランプリ」の立役者「やらい奥出雲」、エコ農産物の栽培に取り組む「モトグ」、地域の特性を活かした商品を生産、販売をする「株式会社 奥出雲屋」、ブルー

ベリーの生産加工、出荷、販売までのすべてに取り組む横田高校「だんだんカンパニー」等、地域で活動する団体の皆さんから、活動内容やふるさと奥出雲に対する熱い思いが語られました。また、机ごとに自由に話してもらった「ワールドカフェ」では、町内外、遠くは東京からの参加者約百五十人が、景観だけに留まらず、どうしたら奥出雲町がより素敵になるか思い思いに発言し、いろいろな考え方を共有する場になりました。参加した横田高校生のひとは「このような形



▲ワールドカフェの様子

式の会議に初めて参加したがとても楽しかった。卒業し故郷を離れることがあっても、いつかは戻り、奥出雲の未来を作りたい」と語りました。



「第四十四回 全国高等学校選抜ホッケー大会」が東京都日野市民陸上競技場・阿須運動公園ホッケー場にて開催され、その結果報告会が三月二十八日、横田庁舎前と仁多庁舎前で行われました。横田高校男子ホッケー部は、準決勝で栃木県の今市高校を延長戦で下し、決勝戦で奈良県の天理高校と対戦しました。横田高校の攻勢で試合が進んだものの、〇対二で惜しくも敗れ準優勝となりました。伊藤直登監督は、「接戦の

続く苦しい戦いが多かったですが、選手や監督含め全員で一つとなり戦い抜きました。優勝することは出来ませんでした。次につながる結果になったと思います」と今回の大会を総括しました。また、キャプテンの内田健斗さんは「今回敗れて感じた悔しいという気持ちと、勝ちたいという気持ちを忘れず、夏のインターハイと秋の国体の二冠を目指します」と意気込みを語りました。



▲まちづくりへの想いを述べる参加者

## 炊き出しセットを寄贈いただきました



島根県LPガス協会奥出雲町地区会から大型の寸胴鍋、釜、コンロなどを一式そろえた炊き出しセット「炊き出しステーション」が町へ寄贈されることとなり、その贈呈式が三月二十七日に仁多庁舎前で行われました。炊き出しステーションは約八十人前のご飯と汁物を同時に調理することができ、横田マルサの細木晃社長から目録を受け取った井上町長は「年に一度、災害訓練に使っていきたい。災害時の避難場所と想定している各地区公民館への配備も将来的に考えてい」とお礼と有効活用案を述べました。